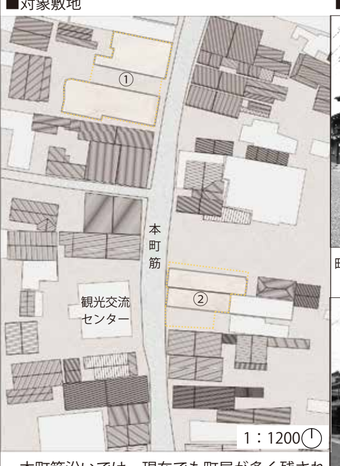
代謝する立体格子の風景

津島市は本町通りを中心に町並みが形成され中世からの歴史・文化が色濃く残る地域である。

しかし、現在では町屋の取り壊しや空き家化が進み、伝統的な景観が失われつつある。そこで既存町屋を地域資源として活かし、人が住まいながら補強・保存するシステムを提案する。

本提案では、以下の 3 点をコンセプトとした。①既存部分を保存しつつ現在の生活スタイルに空間を適応させる ②空き地を住空間へと取り入れつつ景観を整える ③住人のためだけでなく地域の人々に開放し、町家を地域に根付かせる。構造的な対策だけではなく、暮らす人と共に代謝をしながら、この場所に残り続ける風景の実現を目指す。

■対象敷地

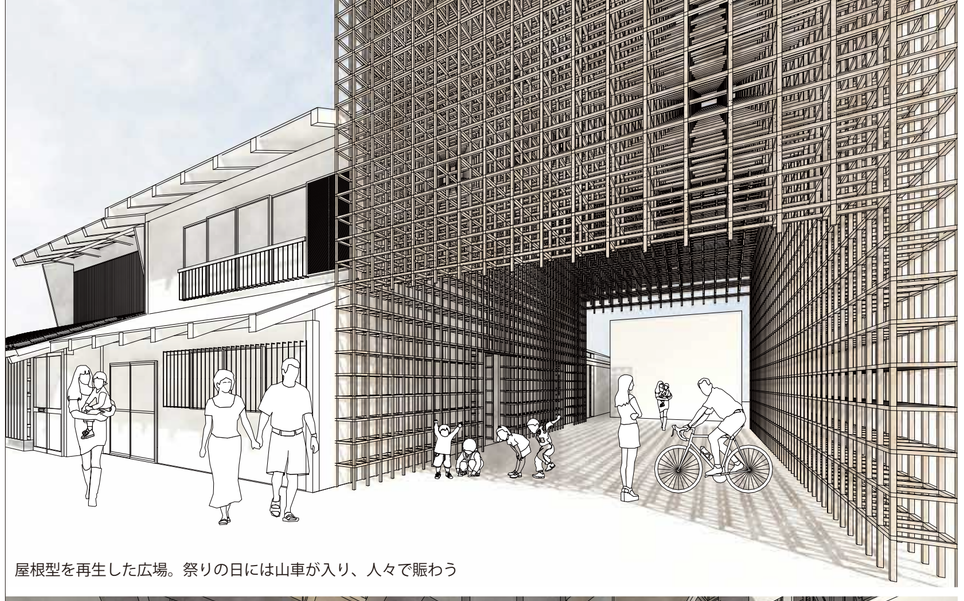


本町筋沿いでは、現在でも町屋が多く残されている。江戸時代から残る町屋がある一方で、建替えや空き地も増加しており、景観に配慮した保存計画が必要である。この場所を対象に、津島型の町屋モデルプランを提案する。

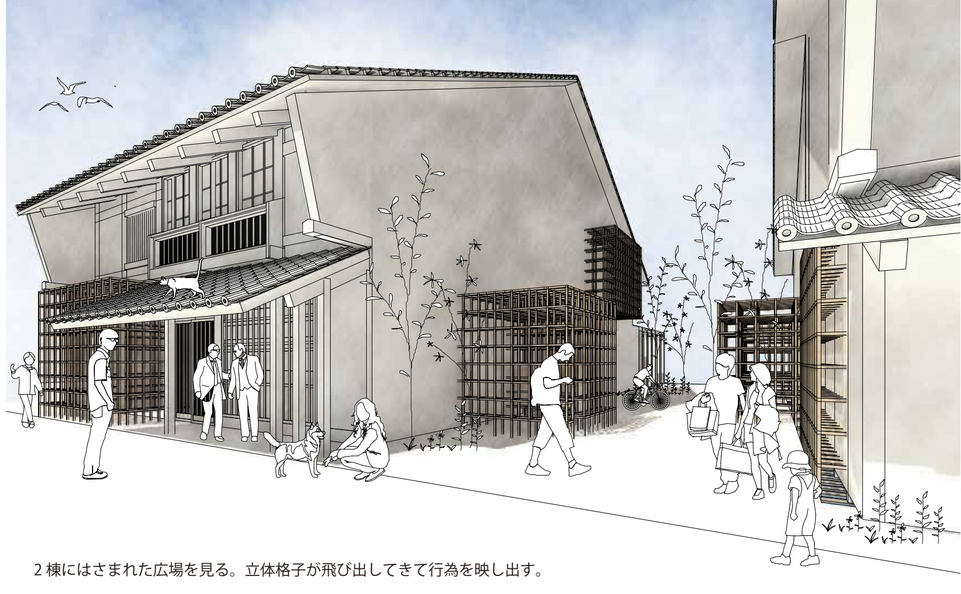
■町並みの現状

町並みを無視した住宅が建ち景観が失われていく。

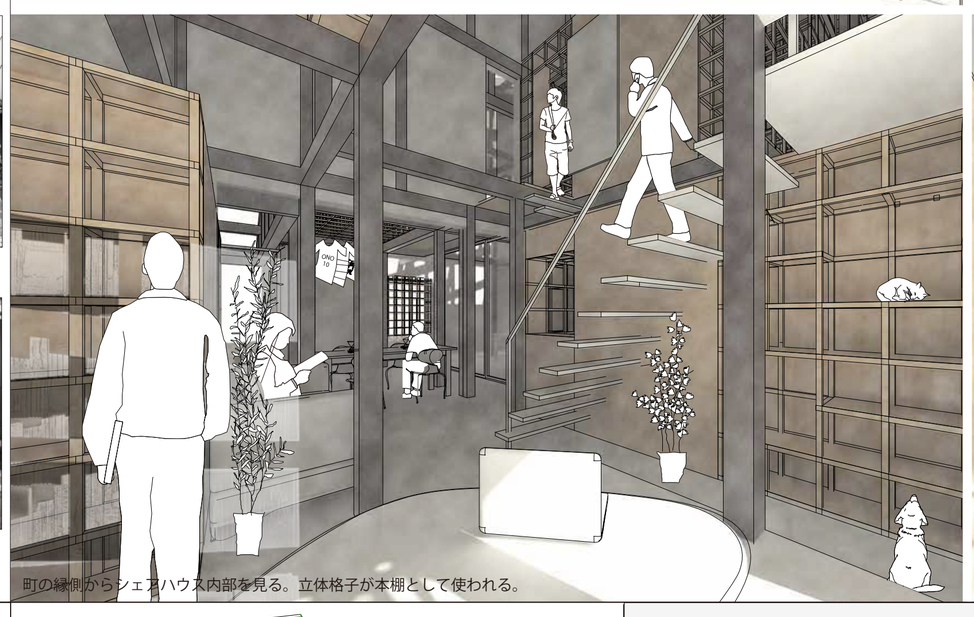
過去の町屋の屋根型が既存の建物の壁面に残る。町屋の跡地は空地となっている。



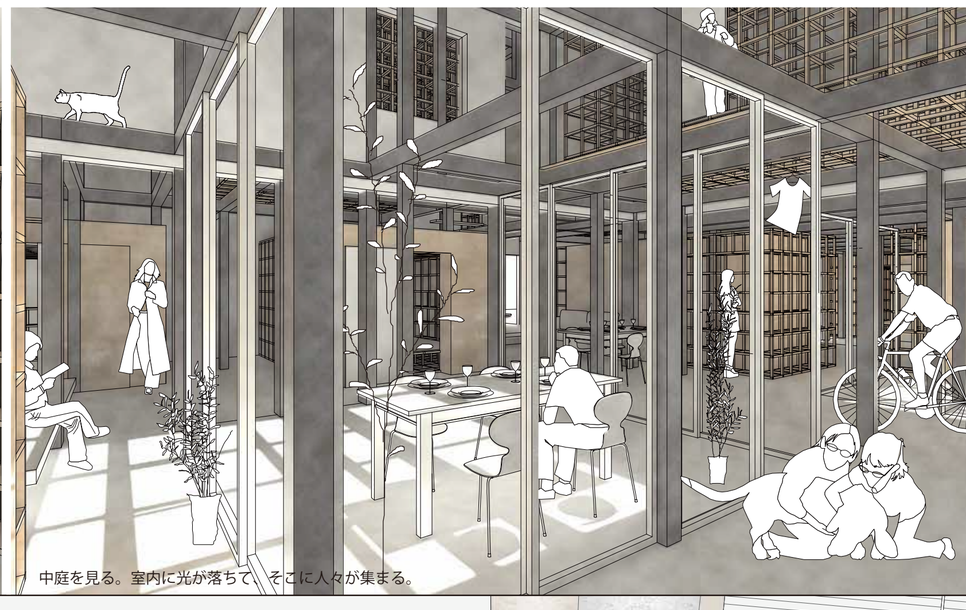
屋根型を再生した広場。祭りの日には山車が入り、人々で賑わう



2 棟にはさまれた広場を見る。立体格子が飛び出してきて行為を映し出す。

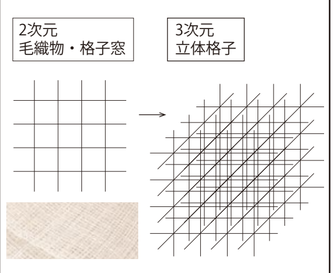


町の縁側からシェアハウス内部を見る。立体格子が本棚として使われる。



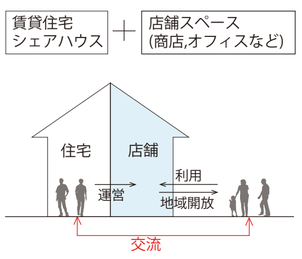
中庭を見る。室内に光が落ちて、そこに人々が集まる。

01 デザインコード：格子



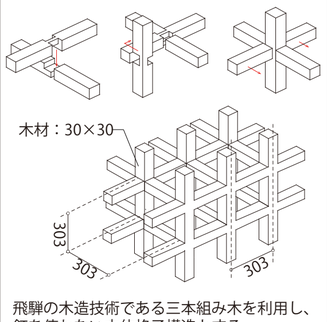
毛織物や町家の格子窓に見られる格子は
津島のデザインコードである。
平面から立体へ展開し建築として利用する。

02 プログラム



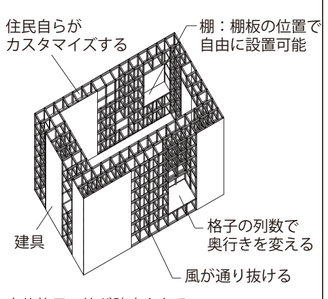
既存の町家を改修し賃貸住宅とする。
町家の店舗空間を残し、地域に開くことで
住民は地域の人々とつながりをもつ。

04 三本組み木による立体格子構造



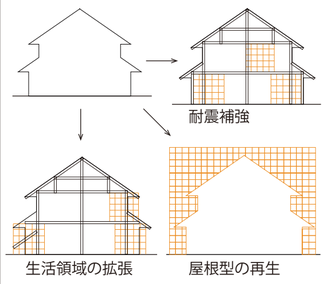
飛騨の木造技術である三本組み木を利用し、
釘を使わない立体格子構造とする。
町家のスケールに合わせ303ピッチとする。

03 立体格子による箱の提案



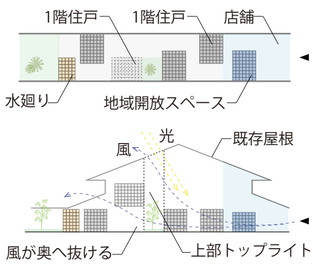
立体格子の箱が諸室となる。
独立した箱型ユニットを用いることで、
既存の町家を壊さず増改築を行う。

05 町家への展開



立体格子が柱・梁を受け、耐震補強を行う。
さらに町家の外部にまで格子を広げることで
増築や保存の役割を果たす。

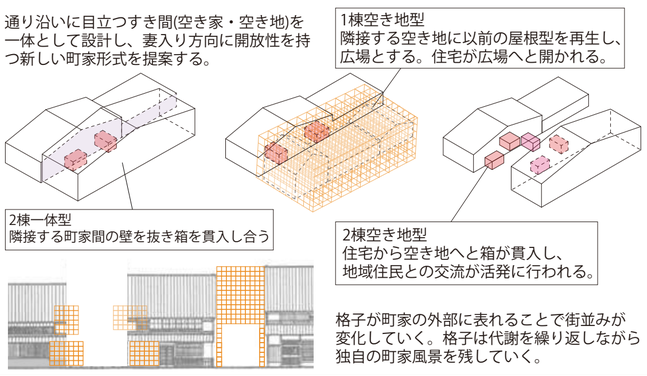
06 平面・断面ダイアグラム



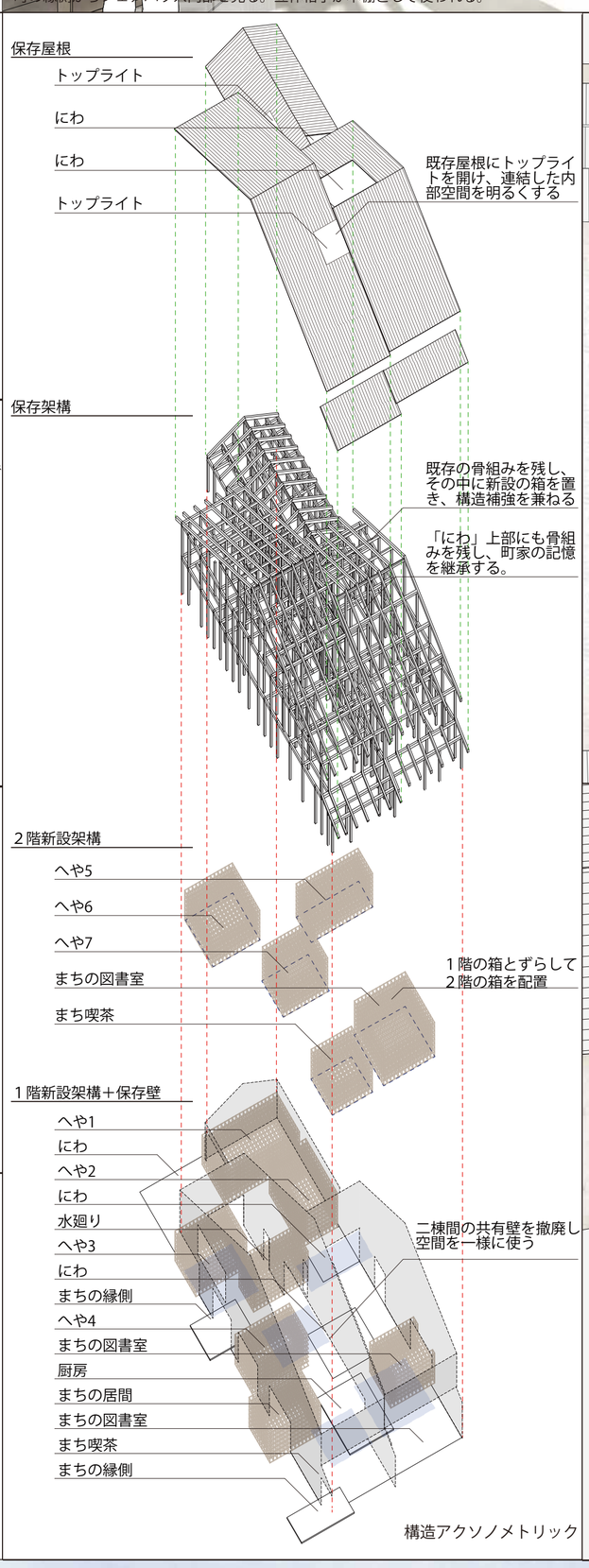
箱同士が接しないように点在させることで、
内部空間の大きさが変化する。格子とトップ
ライトから通風と採光を得る。

07 空き家・空き地を活用した住空間

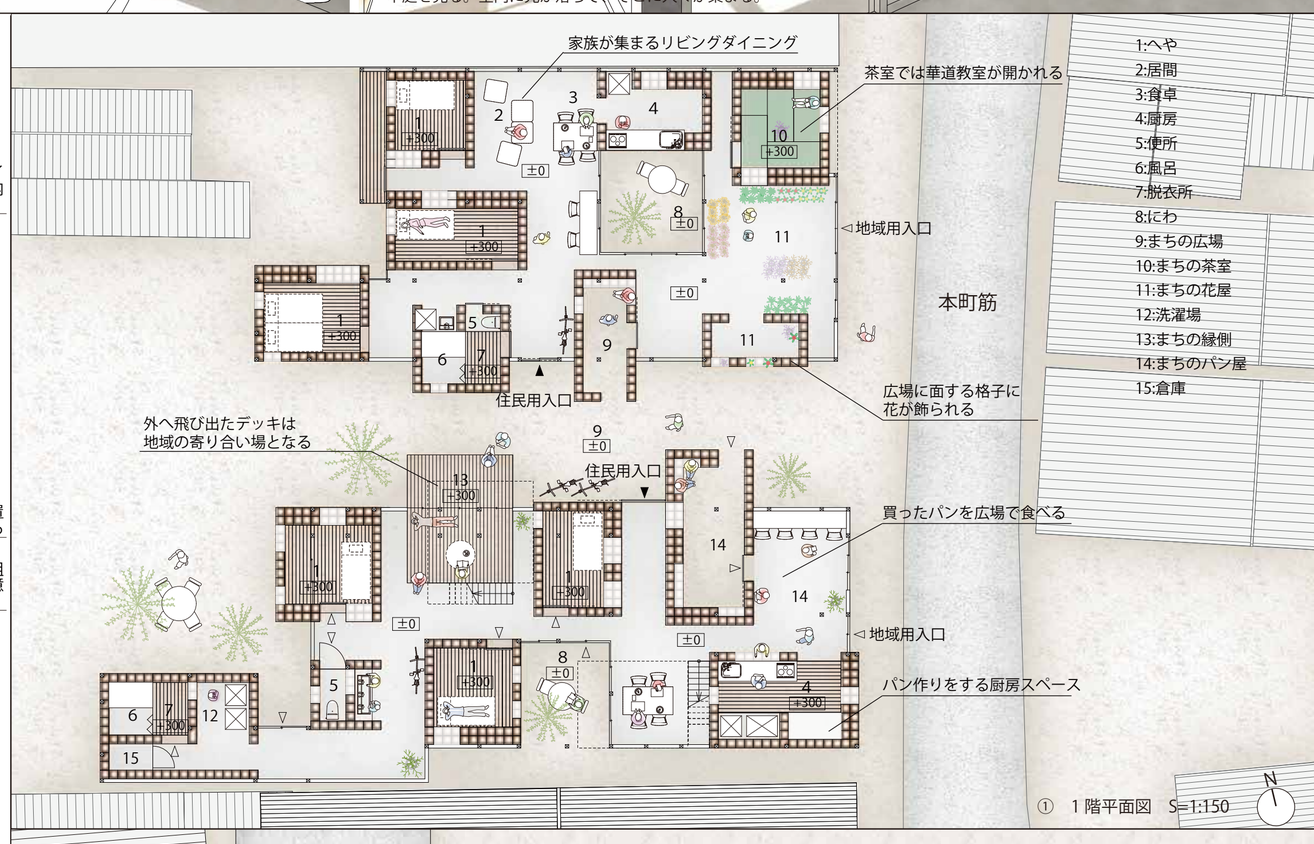
通り沿いに目立つすき間(空き家・空き地)を一体として設計し、妻入り方向に開放性を持つ新しい町家形式を提案する。



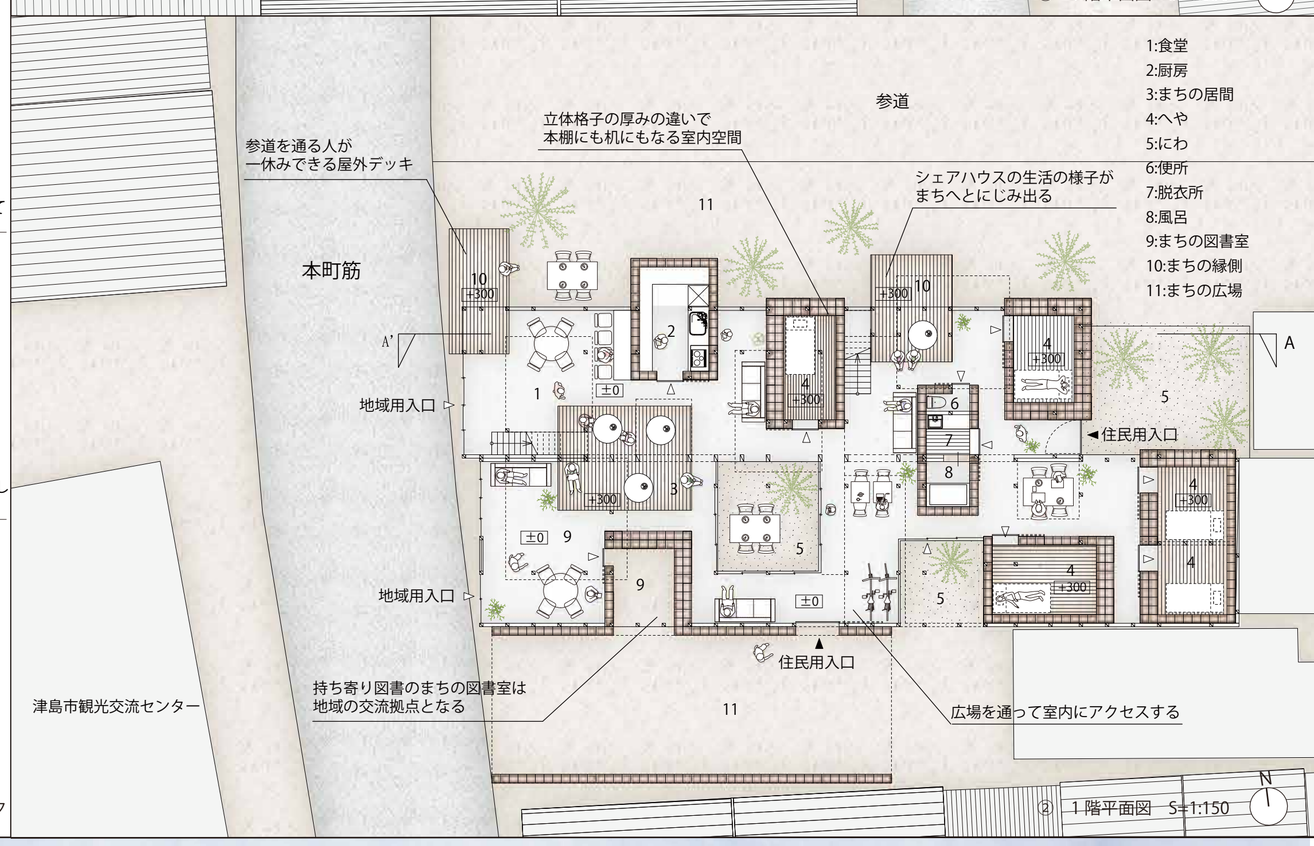
格子が町家の外部に表れることで街並みが
変化していく。格子は代謝を繰り返しながら
独自の町家風景を残していく。



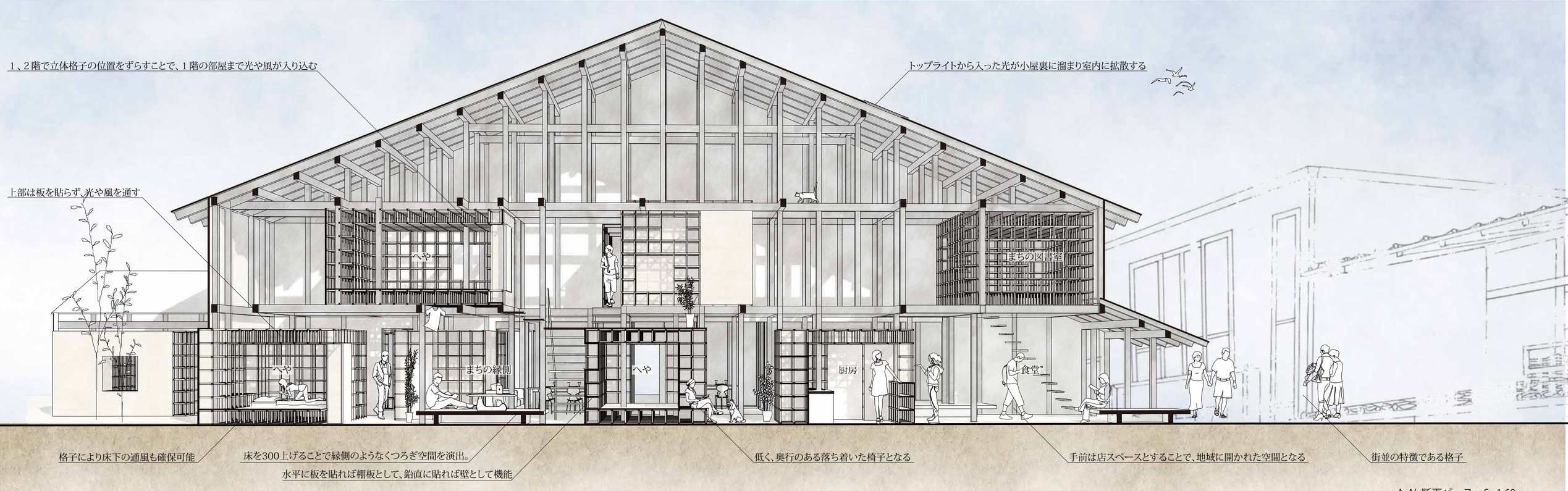
構造アクソノメトリック



① 1 階平面図　S=1:150



② 1 階平面図　S=1:150



A-A' 断面パース　S=1:60